

古代の人口調査

中西 寛子 大学統計教員育成センター 特任教授

【はじめに】

人はグループをなしたとき、少人数であっても、構成人数を知りたいものである。家族の人数は、日々の食料の量を考える基本であり、狩りや漁に出たときも、必要とする獲物の数の基本となる。いくつかの家族が共同し、少し大きな集団として生活をする際には、集団の構成(男女、大人や子どもなど)を知る必要がある。それらの記録が原始時代よりあると言われるが、ここでは、紀元前の「人口調査」(現代の「国勢調査」と区別するために「人口調査」と呼ぶことにする)について言及する。

紀元前の人口調査をおよそ、「紀元前4000年-1000年の世界」、「ローマ帝国時代(紀元前600年-紀元後72年)の人口調査」、「他の国々の人口調査」に分けて説明する。これらの説明の前に、概要を時系列で示す(下表)。最後に、「旧約聖書、新約聖書に見られる人口調査」を興味ある話題として加える。

年(BC)	国	調査内容など
3800	バビロニア	6, 7年ごとに人と家畜の数、備蓄の量を調査
3000	エジプト	初期王朝時代になされていた
2500	エジプト	ピラミッドを構築に必要な労働力を調査
2000	中国	治水事業を行った後に戸口調査を実施した
1500	中国	考古学的遺物から人口が分かる
1155	エジプト	人口調査の個票がパピルスに示されている
600	ローマ	5年ごとの調査開始、人民の管理と税金のため
500	ペルシャ	土地補助金発行と課税目的
435	ローマ	センサス局のセンサス官により執り行われる
350	インド	『Arthashastra』に人口調査実施が記載
86	日本	『日本書紀』に、崇神天皇の即位12年9月、調役の賦課のために人口調査が行われたとある
69	ローマ	共和制最後のセンサス
28	ローマ	センサスの復帰
27	エジプト	パピルスに記されたセンサス個票がある

【紀元前4000年-1000年の世界】

・バビロニア(紀元前3800年頃)

イギリス国家統計局(1)とHouse of Commons, Treasury Committee(2)に「人口調査の最古の記録は紀元前3800年頃のバビロニア人によるものである」と記載されている。この2つの説明をまとめると、「紀元前3800年頃、バビロニア人は6または7年ごとに人と家畜の数を調査しただけでなく、バター、ハチミツ、ミルク、羊毛、野菜の量についても調査したと示唆される内容が粘土タイルに記録されている」とある。さらに、イギリス国家統計局(1)には、その粘土タイルが大英博物館にあると書かれている。残念ながら、実際の調査記録は現存しないようである。

・古代エジプト(紀元前3000年頃, 2500年頃)

House of Commons, Treasury Committee(2)などの文献によると「古代エジプトの人口調査は、紀元前3340年と3050年、初期王朝時代になされていた」とされている。また、2500年頃には、「ピラミッドを構築するために必要とする労働力見積りのため人口調査を行った」とされ、さらに、「ナイル川の毎年の氾濫の後、どのように土地を分配するかを計画するためにも人口調査の情報を使用した」とされている(イギリス国家統計局(1)など)。

ここで少し注意しなくてはならないことがある。エジプトのピラミッドの労働力に関しては、歴史の父と呼ばれるヘロドトス(紀元前5世紀)の著書『歴史』に詳しく書かれているが、これらの記載は伝聞である。そのため、近年の研究から、ヘロドトスの調査内容には疑問が投げかけられている。これら人口調査に関してもそのまま信じることはできない。

・中国(紀元前2000年頃-1000年頃)

中国では紀元前2000年頃から戸籍制度をとりいれているとされているが、実際に信頼できる戸籍登録は『漢書地理志』に記された紀元2年のものである(12,233,062戸, 59,594,978人)。紀元前の人口調査に関しては断片的な資料による推測にすぎない。たとえば「紀元前2000年頃、中国古代の伝説的な帝王で夏朝の創始者とされる禹王が3年の治水事業を行った後に戸口調査を実施した」ということが伝えられているが、加藤(3)が示しているように、史実であるという保証はない。また、加藤(4)において「夏という王朝自体が神話伝説の世界にあり、日本など外国の学界ではまだその実在を疑問視されている」としている。

中国の王朝は殷(紀元前1500年-1000年頃)、西周(紀元前1100年-770年頃)、東周(紀元前770年-221年)と続く。中国のこれらの時代に関しても加藤(4)の研究を引用すると、いずれも人口調査を実施した証拠を示すものではなく、人口推計のヒントとなる程度である。歴史的事件もあり、中国の人口の歴史を正確に記載することができるのは紀元前770年以降、具体的な数値に関しては先に示した紀元2年以降といえる。

・古代エジプト(紀元前1155年)

エジプトの人口調査に関する記録(個票)はパピルスに示されている。そのため古くから人口調査がなされていたと考えられる。エジプト新王国・第20王朝の2代目のファラオであるラムセス三世時代(前1155年頃)についてもハリス・パピルスに記述があり、「10万人以上の労働者と約27万ヘクタールの土地をエジプトの主要寺院に贈与した」とある(Garcia(5))。

【ローマ帝国時代(紀元前600年-紀元後72年)の人口調査】

「国勢調査」という言葉は、古代ローマでのラテン語「censere」(「推定」を意味する)に由来する。ローマでの最初の人口調査は、紀元前6世紀、王政ローマ第6代の王セルウィウス・トゥリウス(在位:紀元前578年-535年)により始められたとされる。イギリス国家統計局(1)は、「ローマでは、すべての男性を5年ごとの人口調査のために生まれ故郷に戻し、彼とその家族の数を数えた。当時、武装市民の数は80,000と数えられたと考えている。人口調査は、拡大するローマ帝国の人々の管理に重要な役割を果たし、税金を決定するために使用された。(後略)」と述べている。

ローマでは、センサス局が設置され、国の統治に利用された。しばしばの中断があったと言え、今の国勢調査の元となっている。紀元頃、ローマの人口調査はピークを迎え、聖書のイエス誕生の際にも関係する。それについては最後に話題として記述する。

【他の国々の人口調査】

・ペルシャ(紀元前500年)

Kuhr and Dassow(6)によると、「ペルシャ帝国軍によって、紀元前500年-499年に、土地補助金発行と課税目的で行った」とある。

・インド(紀元前350年-283年)

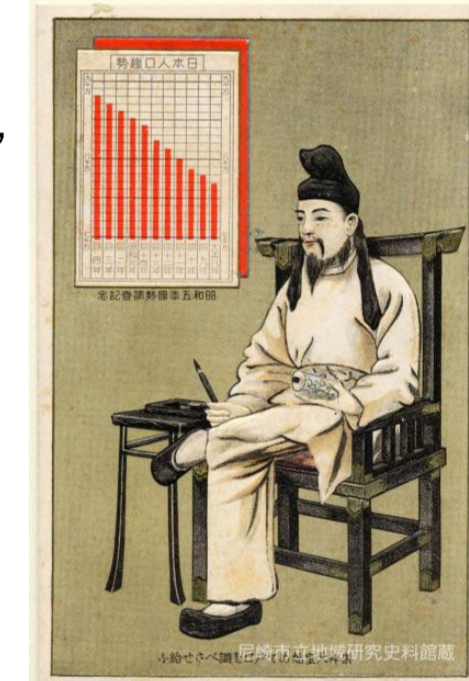
Sharma(7)によると、「マウリヤ朝初代の王チャンドラグプタ時代の書籍『Arthashastra』に人口調査を実施した」ことが記載されている。『Arthashastra』とはチャンドラグプタ王の宰相カウティリヤの作と伝えられる政治論である。そこには、税のための国家政策の尺度として人口統計の収集を規定し、人口、経済および農業センサスの実施方法の詳細な説明が含まれる。

・日本(紀元前86年)

日本最古の人口調査として『日本書紀』に、「崇神天皇の即位12年9月、調役の賦課のため行われた人口調査」が記されている。『日本書紀』では、崇神天皇は第10代天皇とあり、在位は崇神天皇元年1月13日-同68年12月5日(紀元前97年-紀元前30年、ただし、西暦との対応は確かなものではない)である。

(右図:始めて戸口を調べさせ給ふ(昭和五年國勢調査記念)

尼崎市立歴史博物館“あまがさきアーカイブズ”所蔵)



【旧約聖書、新約聖書に見られる人口調査】

・旧約聖書第4の書『民数記』(紀元前1500年頃)

旧約聖書には、イスラエルの民がエジプトを出たとき、新たな地に入るときに行われた2回の大規模人口調査がある。この調査に関する記述があることから、旧約聖書中モーセ5書の第4の書は『民数記』と呼ばれる。具体的には、1章~4章にある「シナイの荒野における人口調査」と26章~27章の「カナン入りを前にした人口調査」である。

・旧約聖書『サムエル記(下)』(紀元前1000年頃)

『サムエル記(下)』の「ダビデの人口調査」と呼ばれるこの調査は主によって命じられたのにもかかわらず、人口調査が罪とされ、災いがもたらせられる。

・新約聖書『ルカによる福音書』

ローマの人口調査は、聖書『ルカによる福音書』の『第2章 イエスの誕生』に関係する。要約すると、「イエスの誕生時、人口調査を皇帝アウグストが命じた。そのため、ヨセフは身重のマリヤを連れてベツレヘムまで移動していた。その途中でイエスが誕生した。止まる宿がなく、飼料おけに寝かされた」ということである。なぜ2人が移動していたかという点、上で述べたように、ローマの人口調査(当時5年ごとに実施されていた)は、男性が家族全員をつれ故郷に戻って登録しなくてはならなかったからである。人口調査とイエスの誕生が関係していることは興味深い話である。

(1) イギリス国家統計局: Office for National Statistics (ONS)

(2) House of Commons, Treasury Committee: "Counting the population (p.9 History of censuses), Eleventh Report of Session 2007-08"

(3) 加藤徹:『貝と羊の中国人』, 新潮新書(Kindle版). 第4章「人口から見た中国史」, 2006

(4) 加藤徹:「中国の人口の歴史, 夏から西周まで」

(5) Juan Carlos Moreno Garcia(2016): Dynamics of Production in the Ancient Near East, Oxbow Books.

(6) Amélie Kuhrt and Eva Von Dassow(1995): The Ancient Near East, c.3000-330 BC Vol.2, Routledge.

(7) Rajendra K. Sharma(2004): Demography and Population Problems, Atlantic Publishers and Dist.